

第 39 回 津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会 報告

日 時：2014 年 6 月 23 日（月）18：30～

場 所：市役所 8F 大会議室 A

<参加者>（敬称略）

堀本浩史（すばる児童館）、増田和正（津市人権・同和教育研究協議会）、小池啓子（三重県ユニセフ協会）、戸上喜之（津市こども支援課）、小林泰子（〃）、村田有香（〃）、田部眞樹子（津子ども NPO センター）、竹村 浩（〃）、野口寛子（〃）、谷口美子（〃）、山口久美子（〃）、山下恵子（〃）、浅原直美（〃）、川喜田ひろ美（〃）

進行：小林さん

●第 38 回市民委員会(2014 年 5 月 13 日)報告

- ・竹村事務局長より報告

☆子ども委員会チーム会議の報告（資料参照）

- ・子ども委員会の報告（資料参照）

●子どもの権利条例制定に関する庁内の話し合いの状況報告

戸上課長より

- ・庁内の意志確認の作業をすすめている。庁内意思確認のプロセスについて、部長から部内の意思確認をして副市長に報告したが、差し戻しがあった。

報告を受けての意見

- ・差し戻しについて、どんな資料が足りないといわれているか等の質問があった。
- ・もう少し勉強してこいと言うことだと思う。自分に落ちていないと伝わらない状況がある。
- ・ユニセフに子どもの権利が落ちにくかった。
- ・子どもの権利条約を作る、作らないの段階にない。
- ・市民が動いてきたら、NOと言えない。
- ・市民の動向にかかっている。
- ・市民委員会の参加者が少なくなっている。気持ちとして落ち込みがあるのは事実。
- ・課長として、今までの方たちの力を借りるのも悪いことではないのではないか。目標を実現したい。
- ・部内の意思統一していることなので、部として対応している。
- ・一緒にやり合う仲間として、やりたい。
- ・仲間だけ条例をつくるにあたっては、行政は特別な存在。条例は行政しかつけれない。
- ・楽しみにしている。ただ、一刻も早くつくりたい。
- ・喜多先生も条例制定の直前の移動に、びっくりしている。

